

フィリピンに再進出 海外売上高10億円以上へ

大日本コンサル

大日本コンサルタンの高久晃社長は8月29日、都内で開いた決算説明会で15年6月期の主要施策を明らかにした。海外

に参画し、「海外事業の売上高を現状の3億〜4億円規模から10億円以上に引き上げたい」との見通しを語った。

14年6月期業績は、売上高130億28百万円（前年同期比6・1%増）、営業利益8億34百万円（31・0%増）、経常利益8億39百万円（32・7%増）、純利益3億66百万円（44・9%増）で、3期連続の増収増益を達成した。特に国土交通省からの受注を伸ばし、受注高は144億50百万円（5・4%増）となった。

15年6月期の主要施策として、高久社長は構造保全・社会創造・防災のコア事業でのシェア拡大や発注者支援、新エネルギー関連事業への参画などを列挙。コア事業のシェア拡大に向けた体制を強化するため、インフラ技術研究所を7月に発足させたという。

同研究所には保全エンジニアリング研究室、川づくり研究室、PM（プロジェクトマネジメント）事業室を設置。インフラの老朽化や環境、エネルギー、防災など幅広いニーズに対応し、大学や他

企業との連携も図っていくとした。同社が誇る長橋技術の伝承にも力を入れていく考えを示した。

15年6月期の業績予想は、売上高133億円（2・1%増）、営業利益8億60百万円（3・1%増）、経常利益8億40百万円（0・1%増）、純利益4億20百万円（14・8%増）。受注高は140億円（3・1%減）。